市民のためのあたらしい登別市本庁舎

①業務実施にあたっての基本的な取組方針について

1 あたらしい庁舎の役割

市政と市民をつなぐ場所

・市民の生活に寄り添う庁舎

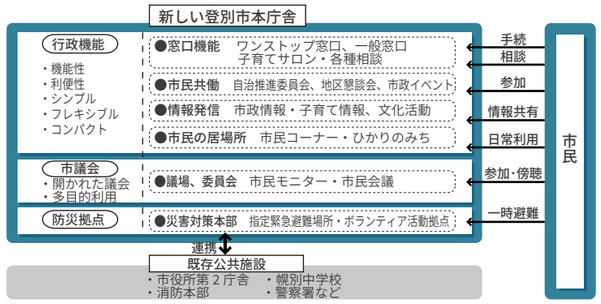
あたらしい市庁舎は、市民が気楽に訪れることができる明るく開放的な場所です。市民の日常的な手続きや相談、憩いの場や子供の居場所を整備します。また市政、市民活動、観光などの情報発信を積極的に行います。

・市政への参画を促す

市民が市政に関心を持ち積極的に参画する場となります。議会傍聴や委員会参加などのための利便性を確保します。また市政に関するイベントでは市民が気軽に参加、協働できる環境をつくります。

・災害時の頼れる存在

広い登別市内における地震、水害、火災などあらゆる災害時において、倒壊することなく情報収集と指令を行う中枢として機能します。また指定緊急避難場所となる防災ひろばと一体となり、市民にとって頼れる存在となります。



2 高台に建設することの意義

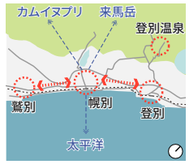
海と山を感じる結節点

・分散するまちをつなぐ

高台のゆとりある敷地である長所を活かします。鷲別・幌別側と登別側の東西両方に正面玄関と十分な駐車場を整備し、**2つの正面**をつくることでまちを繋ぎます。十分な駐車場を確保するほか、高齢者向けに屋根付きの「思いやり駐車場」、タクシープールの整備などこれからの公共交通のありかたを議論しながら設計を進めます。

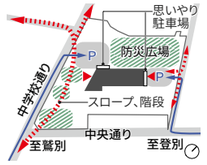
・歩いてまわれるまちづくり

幌別中心市街地から歩いてつながることを意識します。中央通りから中学校通りに続く経路は、公園が連続するようななだらかなスロープ、階段を整備し、海や山の風景を感じながら市役所に向かう憩いの場となります。幌別の市街地全体が**歩いてまわれるまち**になるきっかけをつくります。



分散するまちをつなぐ
東西２つの正面

歩いてまわれるまちづくり
山と海を感じる経路



あたらしいシンボル
人の流れをつくる

・市民に開かれた「市役所公園」

広い敷地を活かし、**公園の中に市役所がある**ような計画とします。中学校通りに平行してつくられる段差を活かした複数のひろば、敷地北側に広がる平坦な緑と傾斜地からなる防災ひろばをつくり、庁舎と一体となった計画とします。

3 場所にふさわしい機能的な配置計画

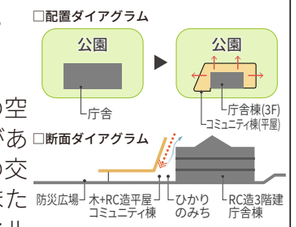
公園とつながる開かれた庁舎

・機能的な庁舎棟を取り囲む平屋のコミュニティ棟

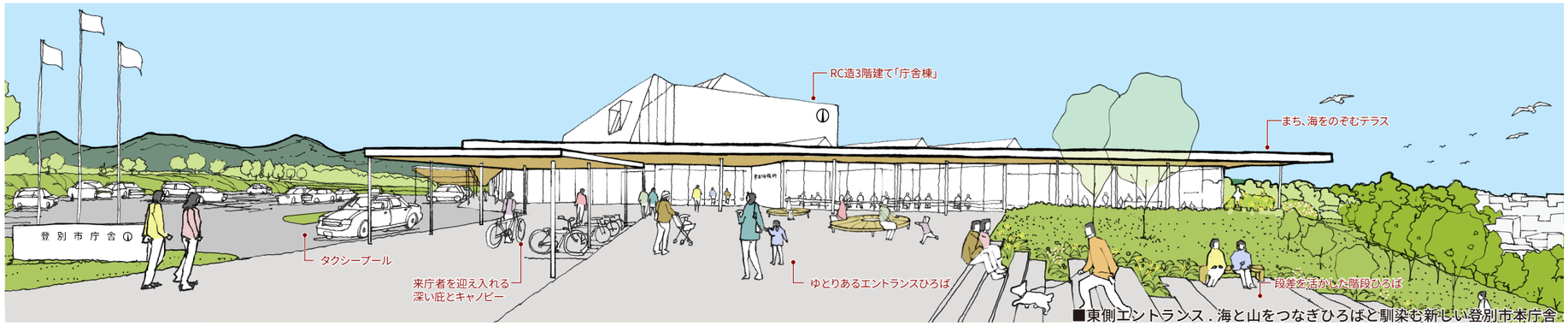
緑豊かな公園にふさわしい庁舎をつくります。機能的でコンパクトな**RC造3階建ての庁舎棟**を中心として、その周囲を**木＋RC造平屋のコミュニティ棟**が取り囲む形式とします。木を使った親密なコミュニティ棟と公園がつながり、市民の憩いの場、活動の場となります。

・市民が集う自然光あふれる「ひかりのみち」

庁舎棟とコミュニティ棟の間の空間**「ひかりのみち」**は、自然光があふれる木造空間であり、市民の交流、展示スペースとなります。また自然光、自然換気を促す省エネルギーのための空間でもあります。



庁舎棟と公園をつなぐ
平屋のコミュニティ棟



■東側エントランス．海と山をつなぎひろばと馴染む新しい登別市本庁舎

②業務（地質調査業務及び地中熱設備導入調査業務を含む）の履行体制について（技術者の専任、兼任）

・業務を迅速に遂行するチーム体制

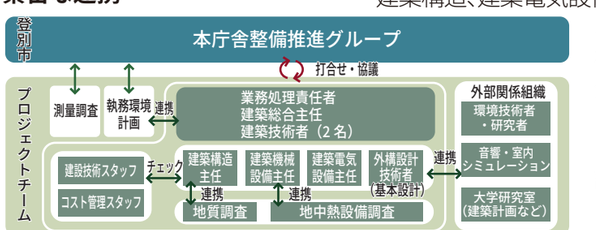
庁舎の設計は多岐にわたるテーマを並行して進める業務であるため、十分な人数と協力者からなる体制を構築します。全体を取りまとめる建築設計は業務処理責任者（従事割合50%）と建築総合主任技術者（同75%）のほかに2名の技術者（同75%）を充て、業務全体を統括します。このほか施工、および積算の経験豊富なスタッフによる品質・コストのチェック体制を構築します。

・協働実績豊富な協力事務所

建築構造、建築電気設備、建築機械設備の主任技術者とは20年以上にわたり協働の実績があり、ひとつのチームとして円滑に連携して業務を遂行します。このほか協働実績のある外構設計者、室内音響技術者、建築研究所との連携を通して専門的な問題を解決していきます。

・執務環境計画策定との緊密な連携

設計を進めるにあたり執務環境計画者との連携を密にすることで、求められるシステムを確実に形にします。併せて将来のシステム変更、組織変更対応などについて対応します。



■各分野の経験豊富なスタッフ・外部組織で構築されるチーム体制

③設計チームの特徴について

・積雪寒冷地の建築技術を熟知したチーム

弊社は創立以来50年以上にわたり北海道に根差した建築設計活動を行ってまいりました。利用者の皆さんと建築をつくるプロセスを大切にしており、施主・施工者とともに赤レンガ建築賞・奨励賞を過去9回受賞するほか、国内レベルも含め多くの評価を与えられてきました。また、胆振地方においても多くの公共建築の実績があります。

・庁舎建築の経験豊富な技術者

業務処理責任者は省エネルギー建築(ZEBを含む)の実績が豊富であり、また過去5年以内に４つの道内庁舎設計の実績があります。建築総合主任技術者は過去5年以内に主任技術者として庁舎や民間オフィスに加えて小学校、病院など公共的施設の設計実績が豊富です。

・最新の知見を持つ各主任技術者、協力事務所

建築構造、建築電気設備、建築機械設備主任技術者はそれぞれ北海道内での設計実績に加え、全国様々な場所での実績があります。専門分野における最新の知見を本業務においても活かします。また外構設計者（基本設計）は道内外の様々な公園設計の実績に加え市内（登別温泉）における計画実績もあり、地域を熟知した提案を行います。

④特に重視する設計上の配慮事項について

・多くの市民に開かれた場所／確実なセキュリティ

あたらしい庁舎では、テイクアウトカフェがある居場所、市民の作品展示、まちの情報、海や山を見渡せる場所でテレワークなど、思い思いの過ごし方ができます。開かれた庁舎を実現するために、執務スペースなどのセキュリティを確実に行います。

・カーボンニュートラルを実現する設計手法

本庁舎におけるゼロカーボンシティに向けたの取り組みを確実に行います。今までZEB相当の庁舎を実現してきた弊社の設計技術に加えて最新の知見を取り入れながら、CO2削減庁舎を提案します。

・コストコントロールを確実に行う工程管理

設計の工程において、計画案とともに概算算出を常に行い、確実に予算に収めます。設計においては汎用的、一般的な工法の採用を基本としますが、様々な資材コストの変動を見据えながら柔軟に案の改善を行います。

・補助金活用の検討

本計画で活用可能な補助金としては、ZEB関連（環境省）、サスティナブル建築物等先導事業（国交省）、JAS構造材利用（林野庁）などが想定されます。そのほか最新の情報を確認しながら可能な限り補助金・交付金の活用を検討します。

⑤その他の配慮事項（地域貢献に関することなど自由な提案事項）について

・市民参加を促すWS（ワークショップ）、設計分室

主に基本設計時では、自治推進委員会や地区懇談会に加えてワークショップを数回開催し、一般市民向けを中心に、子どもと母親向け、近隣中学生向けなど幅広い世代から意見を徴収します。また市内の空き家を利用した設計分室を設け、設計進行状況の模型の展示、打合せなどに利用することを提案します（庁舎設計での実績あり）。市内専門学校などと協働で行うことを提案します。

・地場で建設可能な工法の採用

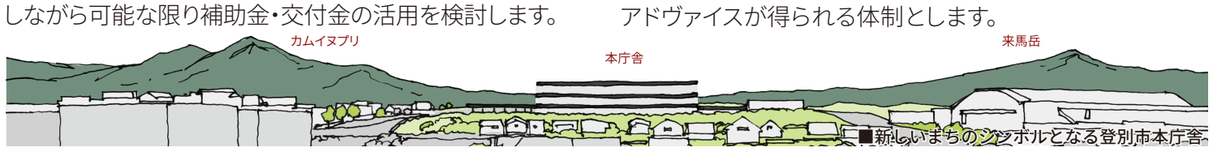
建設工事については、昨今の建設費上昇に配慮し、一般的、汎用的な工法で施工可能な設計を行います。建設コストを抑え、さらに地場の施工関係者の参入を容易にします。

・市内技術者・デザイナー・作家との協働を検討

市内の市内技術者・デザイナー・作家と協働することを検討します。特に木材利用の空間、子どものスペース、アートなど、地域利用が見込まれる空間での協働を検討します。

・大学研究室のネットワークを活かす

地域の大学研究室との深いつながりを活かし、建築計画、交通計画、建築材料など技術系の様々な分野から適切なアドヴァイスが得られる体制とします。



■新しいまちのシンボルとなる登別市本庁舎